

《短 報》

神経膠芽腫の集約的治療後における再発時期の予測

$^{201}\text{TlCl}$ SPECT を用いて

清木 義勝* 周郷 延雄* 黒木 貴夫** 原田 直幸*
横田 京介* 宮崎 親男* 柴田 家門* 立木 一博***

要旨 神経膠芽腫の術後放射線化学療法終了時に $^{201}\text{TlCl}$ SPECT を施行し、腫瘍への $^{201}\text{TlCl}$ の集積程度と再発期間を比較した。対象は、放射線化学療法終了時に $^{201}\text{TlCl}$ SPECT を行った 10 例で、SPECT 上の腫瘍対側正常脳部と腫瘍部の比を TL index として求めた。放射線化学療法終了時の TL index は、1.36 から 6.82 (3.59 ± 1.84)、腫瘍再発までの期間は 3 から 12 か月 (5.55 ± 3.10 か月) であり、明らかな負の相関を示した ($y = -1.28x + 10.14$, $r = 0.760$, $p < 0.01$)。また TL index が 2.0 以下では 8 か月以上再発を認めず、2.0 よりも高い場合、5 か月以内に腫瘍再発をきたした。以上より、集約的治療終了時点の腫瘍への $^{201}\text{TlCl}$ の集積程度によって、再発時期が数か月以内か、またはそれ以上かが予測し得ると考えられた。

(核医学 39: 519–525, 2002)